

ASA
大田中央

ASA
東大井

Presents
2007.5月

ASAスタッフは町歩きの達人でもある。朝日新聞販売店発で近所散歩ミニミニ

歩く

創刊号

(毎月25日発行)



④ こういう場面がカッコいい 澄み切った空に、社屋に掲げられたロゴが映える。

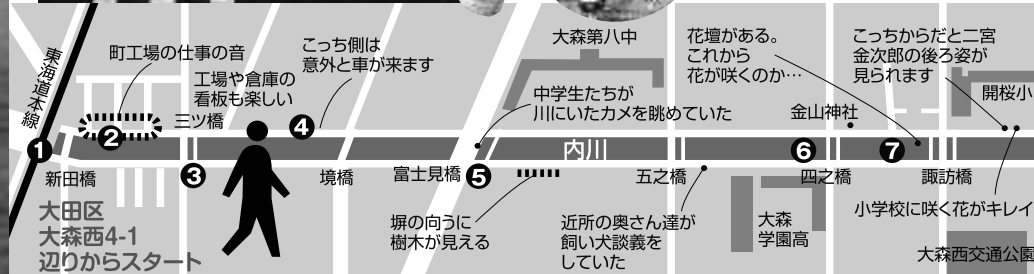
⑤ 群れない桜あり 富士見橋を渡ったところ。テイペンロイ リネンサプライ(株)の敷地に孤独に咲く。道行くドライバーの視線を独り占めだ。



⑥ 突然泡ブクブク 川面が泡立つその訳は！水中に酸素を送り、微生物等による水質改善が狙い。

⑦ そして振り返る 真っ直ぐな内川だけに、振り返れば遠く、歩いた道のりを実感しやすい。思えば遠くへ来たもんだ〜。

⑧ 子ども達からのメッセージ 開桜小学校のフェンスに据えられたペットボトル花壇。これからもこの町で暮らし続ける子ども達の、環境への想いが添えられていた。



内川の終点まで歩く

① 始まりは線路の下から 地図で見る内川の始まりは、大田区大森西4-1あたり。JR東海道本線が頭のすぐ上を轟音と共に通り過ぎる橋の下。その横には内川の始点とも言える巨大な水門があった。

② 川下り散歩日和 JRの鉄橋をくぐる。目の前にはのんびりと川下へ、ただ真っ直ぐな川沿いの道が続いている。散歩は、やはり暖かい日がいいと思った。

③ 暮らしと仕事の間を流れる川 歩き始めた内川沿い。川沿いの町工場からは金属板を叩くような音や、かけ声など「働く音」が聞こえてくる。一方対岸には暮らしの詰まった住宅が建ち並ぶ。

当たり前前の存在だった 近所の川を散歩の目的にしてみる。

いつもはただ通り過ぎてしまうだけの川だけど、時々「どこまで流れてるんだろう」と思うときがある。第一目の「歩く目的」は、大森西3丁目と4丁目を分けるように流れる「内川」(約2km)の終点を目指す！

第一京浜を渡ると、町並みはガラッと変わる。内川散歩の第2ステージだ。



⑨第一京浜を渡る 粉塵を巻き上げながら押し寄せる車の流れ。第一京浜をくぐる間は内川ともしばしお別れ。

⑩散歩のお宝発見! 町と共に年老いてきただろう、ツタの絡まる建物に遭遇。すごい迫力だ。こういう発見が散歩を一層面白くしてくれる。



⑪旧東海道を横切る 内川を橋で渡る美原通りは、実は旧東海道の道筋。散歩のひと休みにお店を探すもよし。歴史解説板も読んでみよう。

⑫味のある川の佇まい 川ぎりぎりに建つ家々が雰囲気ある風景を作る。

⑬わくわくする小路 川と家のスキマのような小径を川に沿って歩く。



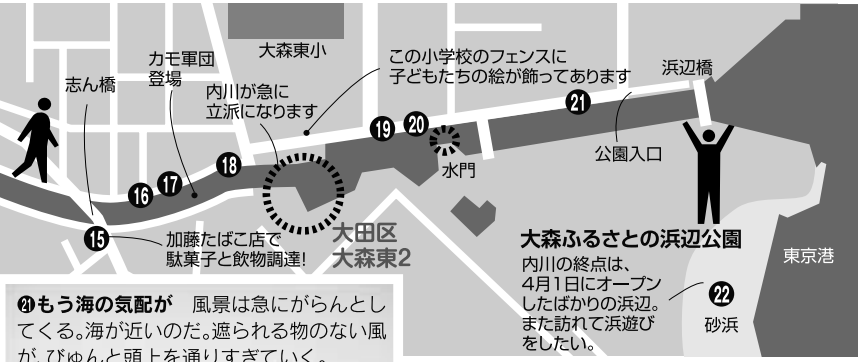
⑭働く男の後ろ姿 川にまたがる工事現場で働く男たち。「現場のお父さん」はかつこいいのです!

⑮橋のたもととたばこ屋さん 志ん橋の傍らで、大正の頃から商うという加藤たばこ店。子ども達が気軽に立ち寄る駄菓子屋さんでもある。「昔は富士山も見え、海の方も景色が良かった」と話してくれたお母さん。散歩は時々とても嬉しい出会いを授けてくれる。

⑯日差しはゆっくり傾く 川沿いの風景は、明らかにスタート地点から変わってきている。気が付けば、夕方の日差しに近づいていた。

⑰川は運河へと 風景の変化を感じ始めた道端に、なんと船が置いてあった。川は次第に「運河」になりつつある…。

⑱カモおじさん現る きれいに整備された散歩道で、カモにパンをあげるおじさん。川面はアツと言う間にカモでいっぱい。



⑲もう海の気配が 風景は急にがらんとしてくる。海が近いのだ。遮られる物のない風が、びゅんと頭上を通りすぎていく。

大森ふるさとの浜辺公園 内川の終点は、4月1日にオープンしたばかりの浜辺。また訪れて浜遊びをしたい。

⑳終点は「ふるさとの浜辺」 約2キロの内川沿いの散歩が終わり、今回の「歩く目的」は達成された。行き着いたのは、4月1日からオープンしたばかりの「大森ふるさとの浜辺公園」。町の海の再生を願い、築かれた人口の砂浜が弧を描いている。

㉑もう河口近し 川幅は急に広くなり、漁船らしき船が係留されている。頭上にぼっかりと広がる空と、その下に豊富に水を湛える内川。住宅と工場の間を無言で流れてきた川は、ここで劇的に変化する。

㉒水門 大きな水門が姿を現す。川はここで終わるのだろうか。

